

一般国道51号 成田橋（千葉県成田市）鉛直部材の調査結果について

記者発表資料

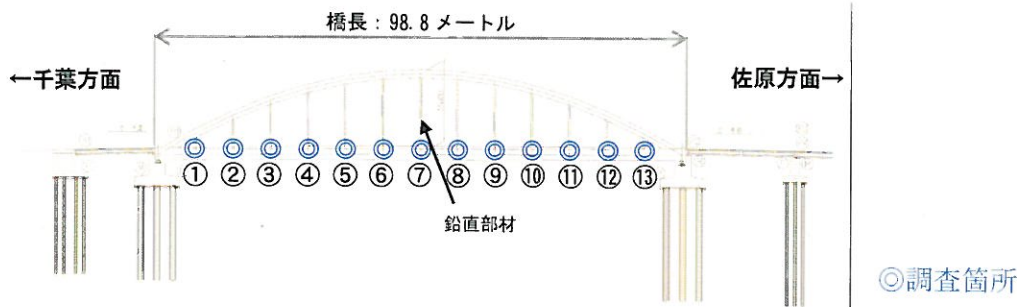
1. 経緯

一般国道51号成田橋のアーチ鉛直部材（鋼製）において、13箇所内の1箇所（7番鉛直部材）に、き裂が確認されたため、詳細調査を行うこととしておりました。

（平成20年1月16日 記者発表）

今回は、その詳細調査の結果をお知らせします。

2. 詳細調査の結果



- 1) 前回お知らせした「7番鉛直部材のき裂」については、確認された平成19年12月下旬からこれまで、進展はありませんでした。
- 2) 「その他、全ての鉛直部材」についても調査を実施した結果、1番、4番、5番において、き裂が確認されました。
- 3) これらのき裂は、溶接作業の過程で発生した「溶接割れ※」の可能性が高く、活荷重により生じる応力から判断して、進展する可能性は低いと考えられます。

※溶接割れ・・・溶接施工時に溶接金属が凝固する際の、収縮や拘束応力によって生じた割れのこと。

3. 今後の予定

- 1) 今後とも予防保全の観点から、重点的に点検を継続していくこととします。
- 2) 万が一のき裂の進展に備えて設置していた仮設支持材（2箇所）については今回撤去し、遊歩道の迂回措置も解除いたします。

平成20年5月30日

国土交通省 関東地方整備局 千葉国道事務所

発表記者クラブ

- ・竹芝記者クラブ
- ・横浜海事記者クラブ
- ・神奈川建設記者会
- ・千葉県政記者会
- ・千葉市政記者会

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 千葉国道事務所

副 所 長 齊藤 厚 (さいとう あつし) (内線 205)

管理第二課長 長門 幸朗 (ながと ゆきお) (内線 441)

TEL 043-287-0315

1. 橋梁の概要

- ・ 橋 梁 名：成田橋
- ・ 所 在 地：（一般国道51号）千葉県成田市東町～東和田
- ・ 橋梁形式：単弦ローゼ桁橋
- ・ 橋 長：L=98.8m
- ・ 全 幅 員：W=25.05m（4車線）
- ・ 架設年次：昭和54年（1979年）

2. 前回お知らせの概要（平成20年1月16日、記者発表）

(1)概要

- ・ 中央分離帯のコンクリートに埋め込まれているアーチ鉛直部材（鋼製）13箇所内の、1箇所（7番鉛直部材）で、き裂が確認されました。き裂は、鋼材の付け根の一部に生じているものです。

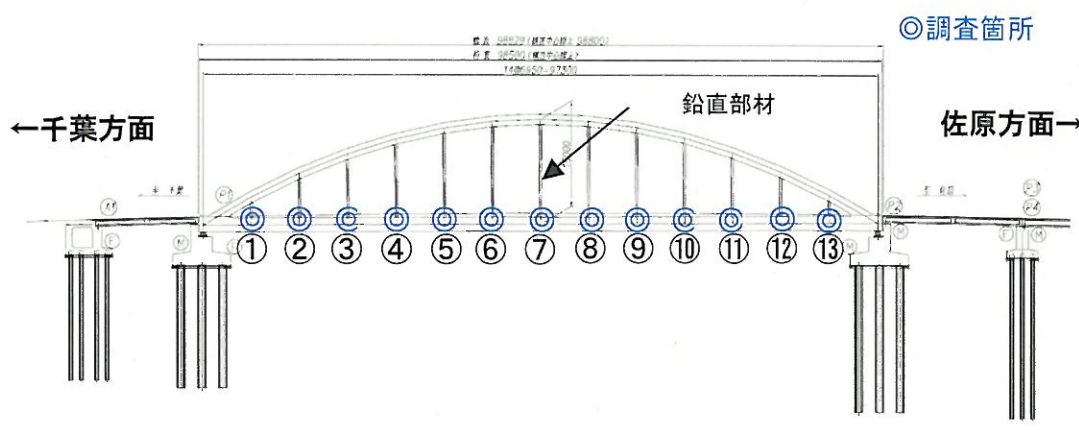
(2)詳細調査の実施

- ・ 確認されたき裂については、進展の有無を監視します。
- ・ 他の鉛直部材においても、き裂の有無や溶接状態を非破壊試験により調査を行います。

(3)応急対策の実施

- ・ 当面の交通に支障はありませんが、万が一き裂が進展した場合等に対する安全性確保のため仮設支持材を設置しました。

3. 詳細調査の実施および結果



(1)調査内容

- ①溶接部の近接目視調査
- ②溶接部の非破壊試験（磁粉探傷試験、超音波探傷試験）

(2)調査結果

- 1) 前回お知らせした「7番鉛直部材のき裂」については、確認された平成 19 年 12 月下旬からこれまで、進展はありませんでした。
- 2) 「その他、全ての鉛直部材」についても調査を実施した結果、1 番、4 番、5 番において、き裂が確認されました。
- 3) これらのき裂は、溶接作業の過程で発生した「溶接割れ※」の可能性が高く、活荷重により生じる応力から判断して、進展する可能性は低いと考えられます。

※溶接割れ・・・溶接施工時に溶接金属が凝固する際の、収縮や拘束応力によって生じた割れのこと。

4. 今後の予定

- 1) 今後とも予防保全の観点から、重点的に点検を継続していくこととします。
- 2) 万が一のき裂の進展に備えて設置していた仮設支持材（2箇所）については今回撤去し、遊歩道の迂回措置も解除いたします。

位置図

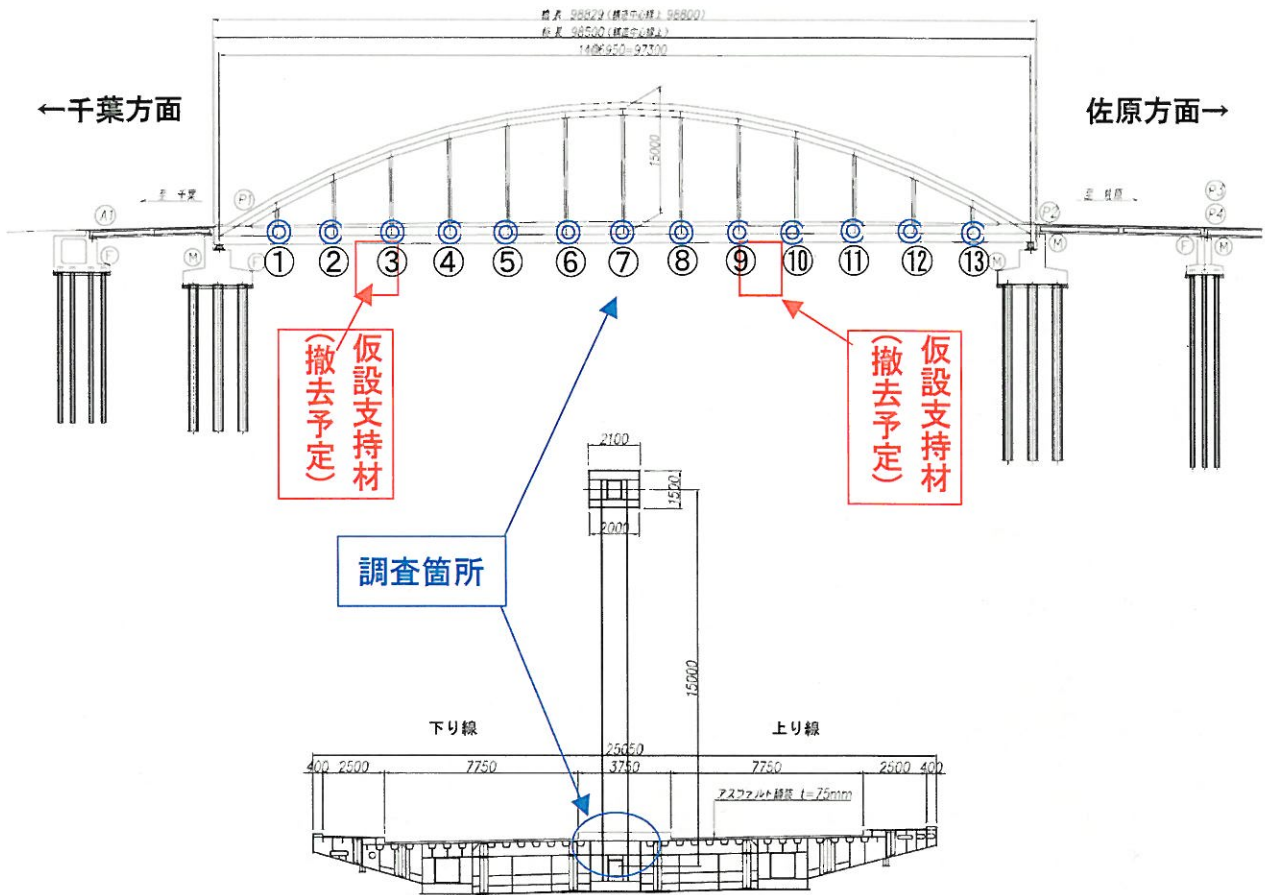


佐原方面



千葉方面

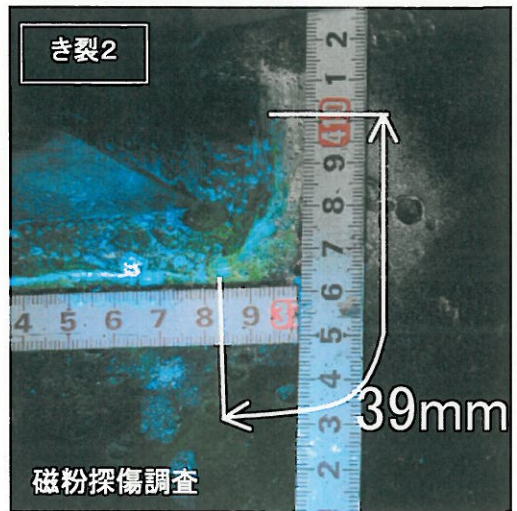
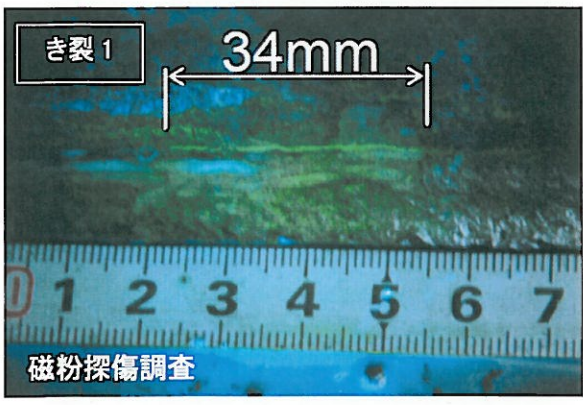
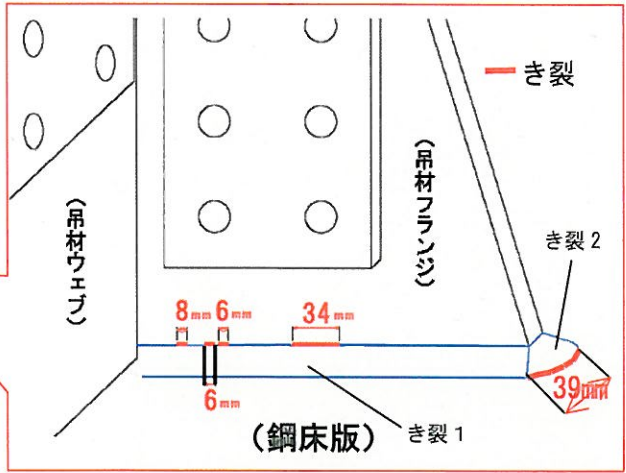
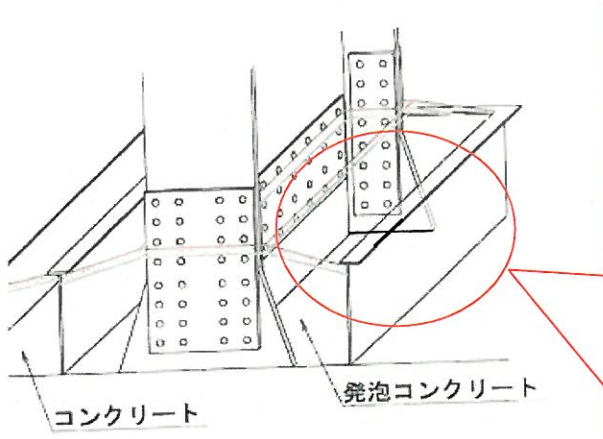
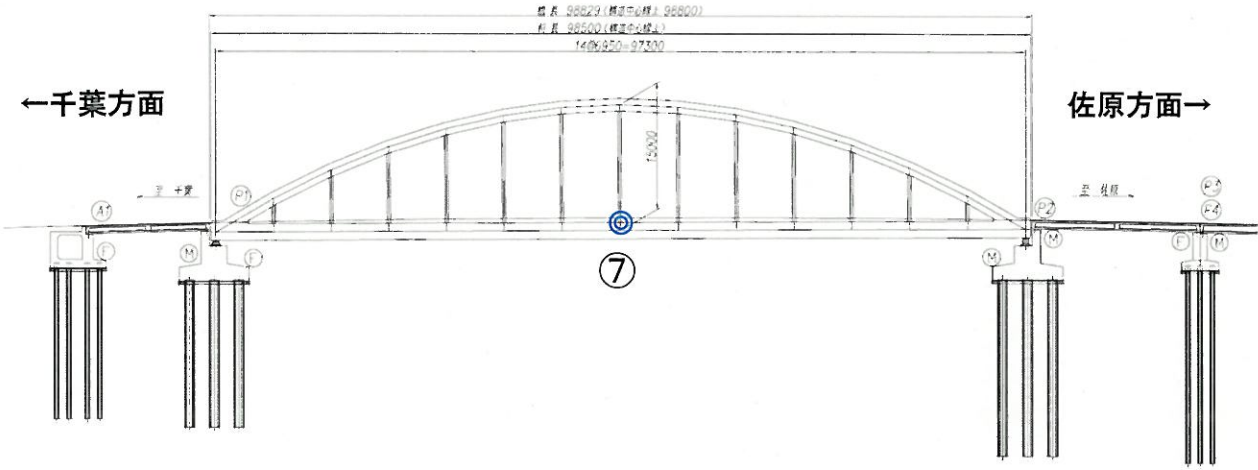
詳細調査箇所



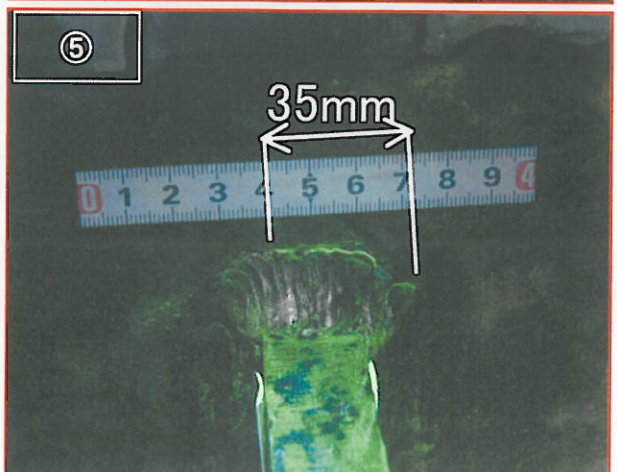
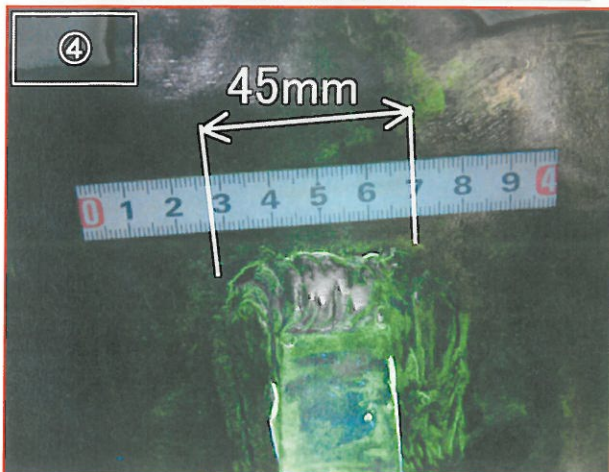
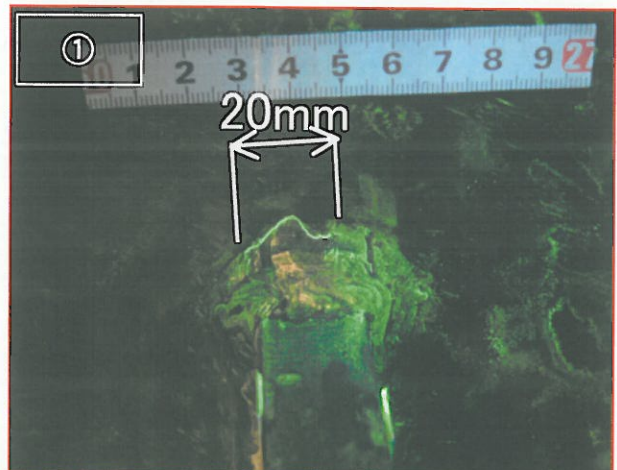
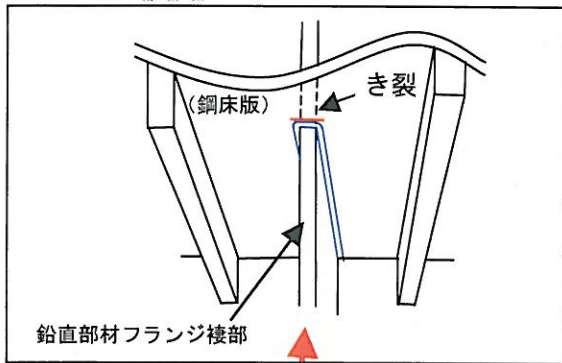
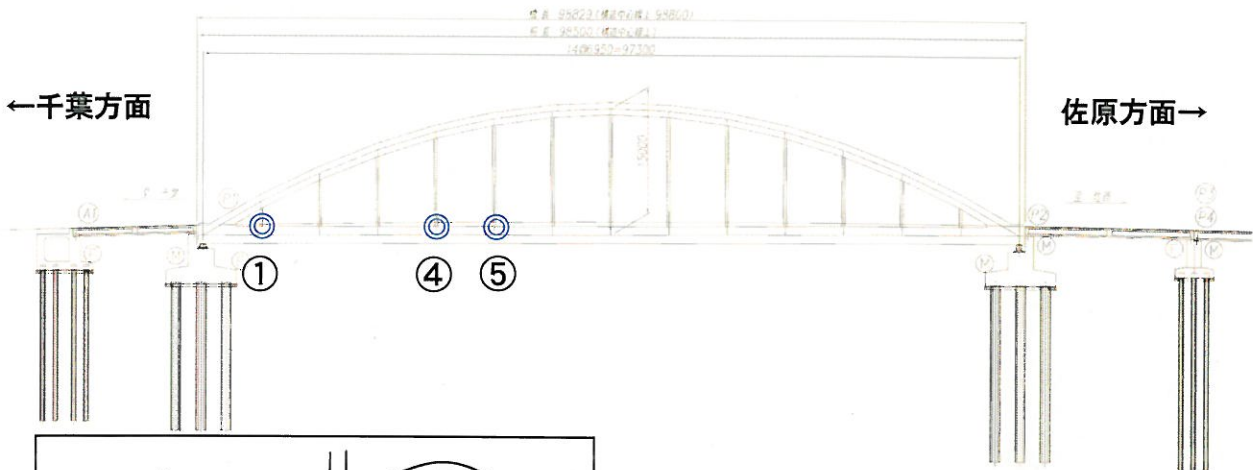
成田橋全景



7番鉛直部材調査結果



1番、4番、5番鉛直部材 調査結果



仮設支持材設置位置（撤去予定）

